

湿原の生態系サービスの分類と経済価値評価（案）

（2014年3月11日版）

- 本資料では、TEEBの分類に基づいて湿原の生態系サービスを4つの大分類及び22の小分類に分け、既存の経済価値評価または定量評価の事例をもとに各生態系サービスの経済価値を示した。
- 本資料に掲載した全国の湿原の経済価値は、個々の湿原の地域差（湿原の立地、地形、植生、泥炭や土壌の堆積状況、気温、降水量、周辺の土地利用状況など）や、市場の価格変動等の流動的な要素を十分考慮せずに評価したものも含まれる。
- 評価の考え方及び評価方法、根拠等については資料2-3に整理した。
- 生態系サービスの内容が特定できない、評価手法が確立されていないなどの項目については灰色網掛けとした。
- 上記のとおり、湿原の有する全ての生態系サービスを評価できているわけではなく、今回評価できたのは湿原の価値の一部であることに留意が必要。

生態系サービスの分類		生態系サービスの内容	全国の湿原の経済価値(／年)		評価原単位(／ha／年)	経済価値評価の根拠等(資料2-3の通し番号)
供給	食料	食料生産 (マコモ、クワイ、タニシ)				A-1
	淡水資源	淡水資源の供給				A-2
	原材料	原材料の生産 (ヨシ、イ、ミズゴケ、泥炭、ショウブ、カサスゲ)				A-3
	遺伝子資源					A-4
	薬用資源					A-5
	観賞資源	鑑賞資源の生産 (カワニナ、モウセンゴケ)				A-6
調整	大気質調整	大気汚染物質の吸収 (硫黄酸化物、窒素酸化物)				A-7
	気候調整	二酸化炭素の吸収	高層湿原	約 1.7 億円	約 1.2 万円	A-8
			中間湿原	約 1.0 億円	約 1.9 万円	
			低層湿原	約 21.9 億円	約 2.6 万円	
		炭素の蓄積	高層湿原	約 317.1 億円	約 209.8 万円	
			中間湿原	約 71.4 億円 - 82.2 億円	約 129.4 万円 - 149.1 万円	
			低層湿原	約 415 億円 - 747.9 億円	約 49 万円 - 88.4 万円	
	局所災害の緩和	洪水流量のピークカット				A-9
	水量調整	地下水位及び河川水位の安定	約 370.8 億円		約 33.6 万円	A-10
	水質浄化	窒素の吸収	約 4,820.9 億円		約 437 万円	A-11
		リンの吸収				
地力の維持	鉄分の供給				A-12	
土壌浸食の抑制					A-13	
花粉媒介					A-14	
生物学的防除					A-15	

生態系サービスの分類		生態系サービスの内容	全国の湿原の経済価値 (円/年)	評価原単位 (円/ha/年)	経済価値評価の根拠等 (資料2-3の 通し番号)
生育・ 生息地	生息・生育環境の提供	生物多様性の保全	約 1,799.6 億円/年	約 163.1 万円	A-16
	遺伝的多様性の保全				A-17
文化	自然景観の保全	多様な自然景観の創出・維持	約 1,043.5 億円/年	約 94.6 万円	A-18
	レクリエーションや観光の場と機会	レクリエーションや自然体験等の機会提供	約 105.9 億円 ー約 993.7 億円	約 9.6 万円 ー約 90 万円	A-19
	文化、芸術、デザインへのインスピレーション				A-20
	神秘的体験				A-21
	科学や教育に関する知識	環境教育や各種調査研究の場の提供			A-22